

# 下関駅にぎわいプロジェクト地区

(山口県下関市)

- 計画期間 平成21年度～25年度
- 面積 98ha
- 交付対象事業費 7,857.7百万円
- 市人口 268,617人

**ポイント** 下関駅周辺のにぎわい・交流拠点の創出、街なか生活の再生、街なか回遊の創造を創出するまちづくり

**地区概要** 下関駅周辺において、魅力ある集客・交流機能の導入や、既存施設と十分連携した相乗効果の期待できる拠点整備を官民協働で行い、駅周辺の回遊性を高め、交流によるにぎわい創出を図る。

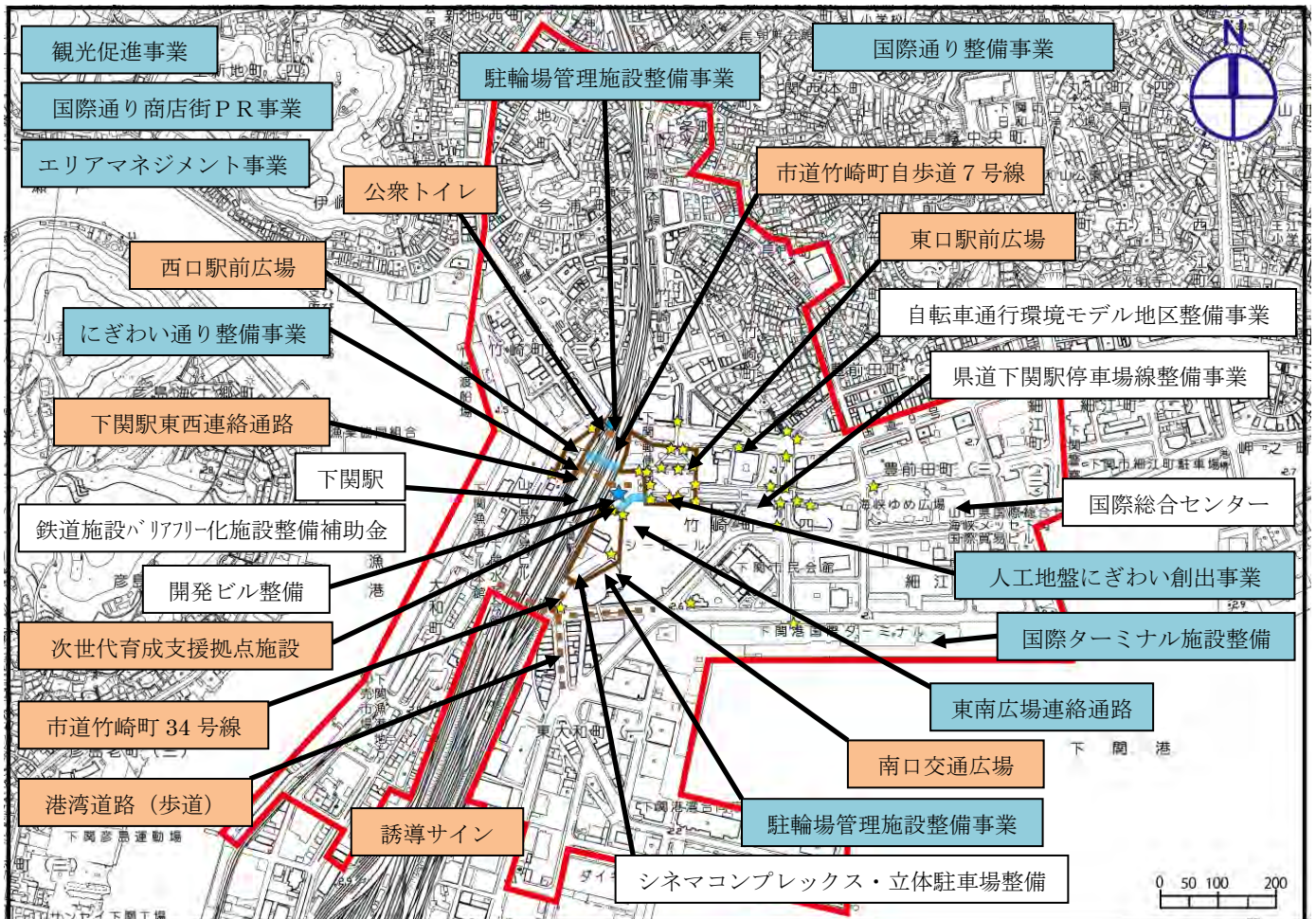
**目標** 下関駅周辺のにぎわい・交流拠点の創出、街なか生活の再生、街なか回遊の創造を創出する。

**指標** 交通結節点整備や歩行者・自転車等通行環境整備を推進し、来訪魅力や回遊性を高めるとともに、市民活動を支援する各種サービス施設の利用拡大を図ることを目標とした。

観光入込客数(人/年)	112,600	(H16~19 平均)	→	112,600	(H25)
施設利用者数(人/年)	219,292	(H20)	→	331,000	(H25)
歩行者通行量(人/日)	34,359	(H20)	→	35,743	(H25)

**事業内容** 基幹事業 (6,881.7百万円) / 道路(東口駅前広場 A=10,600 m<sup>2</sup>、西口駅前広場 A=1,700 m<sup>2</sup>、市道竹崎町自歩道7号線 L=60m、市道竹崎町34号線 L=62m)、地域生活基盤施設(南口交通広場 A=5,000 m<sup>2</sup>、誘導サイン 47箇所、下関駅東西連絡通路 L=167m)、高質空間形成施設(公衆トイレ 1箇所、港湾道路(歩道) L=740m)、高次都市施設(次世代育成支援拠点施設 A=4786.2 m<sup>2</sup>)

提案事業 (976百万円) / 地域創造支援事業(国際ターミナル施設整備 A=1,100 m<sup>2</sup>、国際通り整備事業 1式、にぎわい通り整備事業 A=600 m<sup>2</sup>、東南広場連絡通路 L=60m、人工地盤にぎわい創出事業 1箇所、駐輪場管理施設整備事業 5箇所)、まちづくり活動推進事業(観光促進事業、国際通り商店街PR事業、エリアマネジメント事業)



## 地区の現況と課題

街なかの人通りや施設利用者が減少している状況にあり、既存商店街では空き店舗の増加や販売額の減少など、活力の停滞が問題となっていた。このため既存ストックを活用しながら、利便性と安全性の向上に配慮した交通結節機能の強化と誘導的な施策を十分に連携させ、相乗効果の期待できる拠点整備を推進する必要があった。

## 提案事業の特徴

### にぎわい通り整備事業・東南広場連絡通路

JR下関駅構内1階部分に東西広場を連結する快適な公共空間を整備することやペDESTリアンデッキを整備して商業施設間の連絡強化を図るなど歩行者動線の機能強化を図り、市民や観光客の滞在時間の拡大によるにぎわいの創出を図る。

### 駐輪場管理施設整備事業

下関駅周辺における自転車等放置禁止区域の設定や自転車の流入量の制御といった総合的な自転車等駐車対策の一環として、下関駅周辺に有料自転車等駐車を整備。

### 人工地盤にぎわい創出事業

人工地盤周辺の各施設入り口にゲート機能を持たせ、各施設の改良時には、できるだけ内部が見えるような工夫を行う等して解決を図る。

### エリアマネジメント事業

下関駅周辺の継続的ににぎわいの創出を図るため、周辺事業者への啓発としての講習会や組織作りのための勉強会の開催と講師派遣。

### 国際通り整備事業・国際通り商店街PR事業

既存商店街である国際通り（グリーンモール商店街）の持つ固有の特徴である韓国色を前面に打ち出すために、特色ある施設整備を行うとともにホームページや紙面に展開したガイドブックを作成することで市民や観光客を誘引し、にぎわいの創出を図る。

### 国際ターミナル施設整備・観光促進事業

周辺地区の魅力の周知や施設への誘導を図る整備を行うと伴に、国際ターミナルのサービス機能の向上を図り、施設のイメージアップを図るほか、「回遊パンフレット・マップ」、回遊DVD」作成により観光・商業施設等の情報を効果的・効率的に提供する。

## まちづくりの効果、持続的な取り組み

### まちづくりの効果

シネコン、駅ビルが新設され、既存の商業施設の2階に新たな玄関入口が開かれたことで、JR下関駅の2階に移った改札口と自由通路からの歩行者動線が繋がった。これにより、人工地盤上に賑わいが生まれ、他の周辺商業施設の入館者数が増加するまでに波及している。また、次世代育成支援拠点施設は、市外からの利用者も多く、来客者数が当初目標の約4倍を記録しており、駅周辺の賑わいを如実化している。さらに、中心市街地の各公共施設とも利用者が増加しており、事業の効果が十分に現れている。

### 持続的な取り組み

エキマチ広場(人工地盤)を中庭とした周辺商業施設が連携した「エキマチ下関推進協議会」も設立され、売り出しの新聞広告やシネコン入場券での共通サービスをしているほか、エキマチ広場での各種集客事業を実施している。

## 下関市長のコメント

このたびの第11回まち交大賞において、「まちづくり効果賞」に選ばれましたことは、本市にとって大変栄誉であり、関係者の皆様にお礼を申し上げます。

下関駅にぎわいプロジェクト地区は、新規集客施設と既存商業施設や商店街への回遊性確保、向上と駅改修や民間事業工事と公共工事との施行調整に難しいものがありましたが、無事ハード・ソフトの全事業が完成し、今後は継続的にこれらの資源の有効活用を計れるかに、下関駅周辺のにぎわいの創出がかかっています。今後も官民協働して、下関市の魅力を発信して、多くの方々が来関されることを期待しております。